

## ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線アドバイザーボード（第5回）

### 議事要旨

#### 1. 日時

令和4年5月23日（月） 13:00～15:00

#### 2. 場所

WEB 会議

#### 3. 出席者（敬称略）

##### （1）構成員：

飯塚 留美（一般財団法人マルチメディア振興センターICT リサーチ&コンサルティング部シニア・リサーチディレクター）、櫻田 洋一（CQ 出版社取締役兼 CQ ham radio 編集長）、高尾 義則（一般社団法人日本アマチュア無線連盟会長）、藤井 威生（電気通信大学先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター教授）、藤原 洋（株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長 CEO）、三木 哲也（一般財団法人日本アマチュア無線振興協会会長）

##### （2）総務省：

野崎電波部長、荻原電波政策課長、翁長移動通信課長、伊藤移動通信課課長補佐

#### 4. 議事

##### （1）開会

##### （2）議事

・実験・研究にチャレンジしやすくする（楽しんで続けてもらう）について

##### （3）閉会

#### 5. 議事の経過

- 実験・研究にチャレンジする（楽しんで続けてもらう）について、制度の現状等について説明。
- 構成員から次のような意見があった。
- 無線設備は1設備1設備の検査が原則であり、電波が今後ますます重要になることから、検査については強化が望まれる。無線機の把握は行わずにすべて検査不要とすることは、他の電波利用者や国民の理解を得られないと思う。
- 電波の性質を踏まえると混信等の防止の観点から事前申請による技術基準の適合性の確認や、個体管理を実施することは適切である。日本が理由もなく規制緩和をすることは必要はないのではないか。日本の電波法はIoT時代の流れからすると先見の明がある。
- 電波法の法益を考えると、同じ電波を扱う無線局においてアマチュア無線局だけ別制度にすることはないのではないか。
- 自主管理等による第三者が介在しない制度は、技術基準に適合した電波発射という保証がなくなってしまうと懸念している。すべて自己点検とすると他の無線局と比較しても例外が大きすぎると感ずる。

- 社会に役立つ、無線技術者として役立つ人材を育成することにアマチュア無線の制度が、うまく使えるといい。電波の世界は非常にシビアな世界であり、様々な事業者の方がおり、人命に関わる世界であることから、プロフェッショナルになれるような人材の育成や仕組みが求められる。ルールを理解し、技術者として社会の一員として活用できる人材を育成する必要がある。
- ものづくりや電波を体感させる目的であれば、制度改正よりもラジオ工作や免許不要な微弱無線でよいのではないか。青少年に無線設備の検査の重要性を理解してもらうことも、電波利用環境の確保の上では重要。アマチュア無線の世界では、微弱無線では実用的ではないとか、出力 5W でも弱い電波という認識かもしれないが、プロの世界では 5W は非常に大きい電力という認識。海外でも重要通信への妨害や電波ばく露に対する問題意識があり、高出力の無線局は個別に管理が必要という考え方は基本的な認識として持っておく必要がある。
- 周波数を共用してうまく使っていく方向性がある。アマチュア無線でも無線の世界全体が協調しあい、うまく融通して電波を使っていくという視点も人材育成には必要。
- 米国 FCC の免許の有効期間は 10 年であり、失効すると資格の取り直しとなる。一方、日本は無線従事者免許の有効期間は永久であり、そのことがカムバックするときのきっかけにもなっている。人材育成の適齢期の子どもたちの親などをカムバックハムとして取り込む施策があってもいい。
- 電波制度全般を見ている専門の方から見ると、アマチュア無線だけ特別な対応を行うと、逆に立場が悪くなるのではないかと懸念があるようだ。
- なるべく入りやすい、かつ長く楽しんで続けられるようにすべき。入門、きっかけづくりでアマチュア無線を活用し、スキルアップを図って、アマチュア無線からそれぞれプロに移っていただきたい。
- アマチュア無線を教育、研究で使える制度になれば、電波を肌で感じた若手人材が大学や社会等に入っていくことになり、日本の科学技術のためにも重要と考える。
- 国際アマチュア無線連合(IARU)でも、SWOT 分析による若者を引き付けるための調査分析を行っているようである。日本においても、まず自らを見極めるという点で、同様の取組が必要であると感じた。
- 若い人にどうアマチュア無線に興味を持ってもらうかは、アマチュア無線業界全体の大きなテーマ。草の根にはなるが、関係業界や関係者の手厚いサポート、子供たちに向けたイベント、アマチュア無線の魅力を伝えていく活動などをとにかく地道にやるしかない。電波の特質を踏まえた新たなゲームなのか遊びなのか、交信すること自体を楽しんでいると感じてもらえるものを作れるとよい。アマチュア無線に 1 回入っていただくことが重要と考える。
- パソコンを使ったソフトウェア技術での若者にあった新しいアマチュア無線の魅力も出てくるといい。

以上